

協同

[特集] 持続可能な農業と地域づくりへの挑戦
第35回兵庫県JA大会決議 Part2

2022
Mar
KYODO

3



タッグ! 兵庫の農業人

タマネギの生産振興により、
農家所得の増大を後押し

Farmer × JA staff
生田 忠美さん
西川 敬介さん
詳細は
裏表紙へ

兵庫の農業人

生産者の皆さんとタッグを組んだ
多様な営農活動を紹介します。

タッグの様子は動画でも配信中心!

YouTubeで 兵庫の農業・農協発信ch 検索



今月は JAみのり

タマネギの生産振興により、 農家所得の増大を後押し

植え付けたタマネギ苗の生育状況について話す生田さん(左)と西川さん



生産者

タマネギ生産者

生田 忠美さん

より甘くて肉厚なタマネギが作れるよう頑張ります!今後もさらに栽培面積を拡大していき、将来的にもタマネギ栽培が続いていくような基盤づくりを行っていきます!



JA職員

JAみのり 三木営農経済センター
主任 営農指導員

西川 敬介さん

営農指導員として、農家と思いを一つにして地域を盛り上げていきます!また、農地を守っていくために後継者の育成にも力を入れていきます!



JAみのりは、平成29年からタマネギの生産振興に取り組んでいる。三木別所地区においても、平成30年から栽培を始め、令和2年度の栽培面積は260aとなった。タマネギ栽培は、二毛作を可能とし、水稻収穫後のほ場を有効活用することにより、農家所得の増大を図ることができる。また、JAみのりでは、タマネギ栽培における作業省力化に向けて、収穫機や移植機等のリース事業や共同利用を行い、農業生産の拡大をすすめている。

三木市別所町の生田忠美さんは、コシヒカリやヒノヒカリ、山田錦など計10haの水稻栽培を長年行っているが、JAみのり職員からの提案を受け、4年前からタマネギ栽培を始めた。作付面積は、初年度が20aであったのに対し、現在は1haまで拡大。新規でのタマネギ栽培や面積の拡大には、営農指導員である西川敬介さんをはじめとする三木営農経済センター職員との気兼ねなく相談できる関係性が後押しした。

西川さんは、8年前から三木地区で水稻を中心とした栽培指導を行っており、生産者からの信頼が厚い。生田

さんは「タマネギ栽培を始めてから、センター職員がより近い存在になった。営農指導や販売のことだけでなく、地域農業の将来まで相談できる関係になった」と話す。西川さんはタマネギ栽培について、「まずは部会を立ち上げることを目標として、生産者やJA、行政を交えて地域一体となって取り組んでいきたい」と話す。

JAみのりでは、今後もタマネギの生産拡大に向けて、地域一体となって栽培技術の向上や作業省力化等をすすめ、農家所得の増大と農業生産の拡大へ向けて取り組んでいく。

JAみのりにおけるタマネギ生産振興の取り組み

JAみのり三木営農経済センターでは、平成30年から新規でタマネギ栽培の振興を図り、農家所得の増大を後押し

三木別所地区における
タマネギの栽培面積

30a ▶ 260a
平成30年度 令和2年度